

## 正誤表

対象論文：浦上朋久, 高橋規一, “代数的連結度計算のための擬似分散的離散時間アルゴリズムの収束性～代数的連結度が重複する場合の解析～”, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.118, no.243, pp.115–120, 2018年10月

1. 116 ページ：右段の定理 1

(誤) このとき,  $\mathbf{x}(0)$  のほとんどすべての値に対して, (3) によって生成される状態ベクトルの列  $\{\mathbf{x}(k)\}_{k=0}^{\infty}$  は  $\mathbf{q}_2$  または  $-\mathbf{q}_2$  に収束する.

(正) このとき, (3) によって生成される状態ベクトルの列  $\{\mathbf{x}(k)\}_{k=0}^{\infty}$  は  $\sqrt{n(1 - \frac{k_2\lambda_2}{k_3})}\mathbf{q}_2$  または  $-\sqrt{n(1 - \frac{k_2\lambda_2}{k_3})}\mathbf{q}_2$  に収束する.

2. 119 ページ：右段の補題 7 とその直前の一文は不要

(最終更新日：2018年10月19日)